

アフリカ科学技術協カシンポジウムの結果について

平成21年4月28日

内閣府

1. 日時・場所

平成21年4月27日(月)14:00～18:30

於:文部科学省講堂

2. 参加者

約110名

内訳 政府機関 約35名、独法 約35名、その他法人 10名、大使館等 9名、
大学関係 15名、民間企業等 6名

3. プログラム

(別添参照)

4. 結果概要

- 第一部の特別講演においては、外務省中東アフリカ局の知原審議官より、我が国の対アフリカ外交の意義の観点から、TICADIVとそのフォローアップ、アフリカの多様性を踏まえた科学技術協力の視点などについて、また、文科省の岩瀬科学技術・学術総括官より我が国の科学技術政策とアフリカ協力の観点から、文部科学省の取組みについて説明があった。
- 第二部のミッション報告会においては、内閣府の橋本企画官より、日アフリカ科学技術協力の政策的背景とミッションの目的、調査内容等に加え、ミッションから得られた教訓について報告があった。また、株式会社三菱総合研究所の大野主席研究員より、アフリカ諸国の科学技術政策および研究開発の現状について、調査結果の概要報告があった。
- 第三部のパネル・ディスカッションにおいては、「今後のアフリカ科学技術協力はいかにあるべきか？」をテーマとして、パネリストよりプレゼンテーションを行い、その後ディスカッションを行った。ディスカッションにおいては、アフリカとの科学技術協力の意義や、これまでの ODA の成果を生かした科学技術協力への橋渡しとなるメカニズムの必要性、長期的な協力の重要性、アフリカにおける人材育成の重要性とそれを支える日本人研究者への支援に対する期待等について、意見が出された。最後にモデレーターの内閣府岩橋審議官が、「アフリカは貧しいが世界で最も豊かな大陸であり、それを人々がみずからの発展に使うために新しい技術が必要」という、アフリカの大臣の発言(日本アフリカ科学技術大臣会合)を引用しつつ、内閣府として引き続き日本とアフリカとの科学

技術協力の推進役を果たしていくことを確認し、ディスカッションを締め括った。

○ 最後に、総合科学技術会議の白石議員が、以下のとおり講評を行った。

科学技術外交とは、科学技術と外交の相乗効果をどう達成していくか、ということであり、このことを意識に残すことが大変重要で、今後の課題としては以下の5つが挙げられる。

- アフリカが抱える諸問題の解決を図る上で重要な、ネリカ米や感染症対策等、これまで行われてきた科学技術協力の継続
- 農業や医療分野のみならず、エネルギーやバイオテクノロジーといったアフリカ諸国の関心も考慮した、先入観にとられない幅広い分野での協力
- 「施設」という「モノ」から、「研究」という「ヒト」への連携を、どのようなプログラムで実現していくか、といった ODA から科学技術協力への橋渡しについての検討
- これまで日本の ODA で整備された拠点の、日本のソフトパワーである科学技術の展開拠点としての活用
- 日本の研究開発の中に、日本への留学経験のあるアフリカ人研究者をいかに取り込むか

そして、今後の日アフリカ科学技術協力の方向性として、以下の2点を指摘したい。

- 関係する政府機関及び研究機関が問題意識を共有し、連携して取り組むことが重要であり、研究協力のキーパーソンであり、ハブとなる研究者をどのように支援して行くかについて、検討が必要
- 相手国の研究資源が非対称であるアフリカといかに科学技術協力を進めていくのかは、途上国協力一般に共通することである。アジアとアフリカとの協力のネットワークの密度には大きな差があり、このような状況を踏まえ、ハブとなる研究者を戦略的に繋いでいくことが重要

また、最後に、総合科学技術会議としても府省間の連携を促進し、科学技術政策と外交政策の連携を一層深化させて参りたい。

以上

(別添)

アフリカ科学技術協カシンポジウム プログラム

2009年4月27日

於: 文部科学省講堂

14:00~14:10 開会挨拶 総合科学技術会議議員 白石隆

第1部: 特別講演

- 14:10~14:30 日本のアフリカ外交と科学技術への期待
外務省 中東アフリカ局審議官 知原信良
- 14:30~14:50 我が国の科学技術政策とアフリカ協力への取り組み
文部科学省 科学技術・学術総括官 岩瀬公一

第2部: ミッション報告会

- 14:50~15:10 日アフリカ科学技術協力とアフリカ科学技術調査ミッション結果概要
内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付企画官 橋本道雄
- 15:10~15:30 アフリカ諸国における科学技術政策および研究開発の現状
(株)三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部
科学技術研究グループ 主席研究員 大野進司

15:30~15:50 休憩

第3部: パネル・ディスカッション

- 15:50~17:40 パネル・ディスカッション
テーマ:「今後のアフリカ科学技術協力はいかにあるべきか」
モデレーター: 内閣府 大臣官房審議官(科学技術政策・イノベーション担当) 岩橋理彦
- パネリスト: 文部科学省 参与 町末男
東京大学 大学院医学系研究科 教授 北潔
長崎大学 熱帯医学研究所 教授 山本太郎
(独)産業技術総合研究所 国際部門 部門長 宇都浩三
(独)国際農林水産業研究センター
研究戦略調査室 主任研究員 岡田謙介
(独)日本学術振興会 国際事業部
地域交流課長 前澤綾子
(独)科学技術振興機構 国際部地球規模課題
国際協力室 室長 中西章
(独)国際協力機構 国際科学技術協力室
副室長 加用利彦
- 17:40~17:50 講評 総合科学技術会議議員 白石隆

17:50~18:00 閉会挨拶 文部科学省 科学技術・学術総括官 岩瀬公一